

JSRMPM ニュースレター 2007年3月6日

安全力 (Safety Force)

国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長 酒井亮二

2007年3月1日～3日に東京大学で開催した医療安全教育セミナー2007 春季では、北海道から沖縄にいたる全国各地および近隣国からの参加者がお集まりになり、大変熱心に講演に耳を傾けておられ、感動いたしました。このような熱意の源が何であろうかと、主催者の一人として考える機会に恵まれました。

自然界と生物界には重力、磁力、繁殖力、感染力、免疫力など幾つかの基本的な力(force)が存在し、安全力(safety force)というもの存在するのではないか、と思い至りました。安全力の1つは、棒よりも三角形が安定していますので、物理学的な均衡と崩壊のプロセスに見出せます。

別の安全力は、人を含む生物の中樞神経系に存在します。動物の脳は、外界の危険を感覚として察知し、逃避行動を発動します。脳の機能をさらに研究することによって、人の安全のあり方が合理的に解明できるのではないでしょう。安全は文章のみで理解するのではなく、人間の五感の特性を生かすべきです。複雑な迷路のような院内をすっきりするといった工夫が安全の向上に役立つ理由は、人間の脳の作用です。

医療の現場では、さまざまな安全対策に日々ご苦労されておられると思います。「安全力」という簡単な単語の使用により、職員の士気が持続的に高まると考え、提案させていただきました。